

2024 年度総会・講演会が盛会に終了(速報)

2024 年 11 月 9 日(土)、大阪公立大学難波サテライト I-site なんばの会議室で、2024 年度総会・講演会が開催され、93 名の参加者がありました。



会場風景

[セッション 1]

赤井会長の挨拶があり、それに続く「セッション 1」では赤井会長の司会のもと、クルーズ大阪湾&瀬戸内海というテーマでパネルディスカッションが行われました。まず、神戸市港湾局振興課長の瀬沢氏、大阪港湾局事業戦略担当部長の友田氏、和歌山県港湾空港局長の花田氏、四国地方整備局港湾空港部長の池町氏が、各港におけるクルーズ受け入れ状況等の報告を行い、その後、会場からのオンライン・アンケートを実施して、それらの結果も含めたパネルディスカッションが展開されました。



セッション 1 の様子



瀬沢氏



友田氏



花田氏



池町氏



向井氏



林氏

[総会]

12時から総会が開催され、昨年度の事業報告、会計報告がなされ承認されました。本年度の予算案では、諸物価急騰から30万円近い赤字になることが報告され、今後の会員増、会誌への広告増、運営コストの圧縮だけでは対応が難しいとの説明があり、理事会で承認されたとおり、会費の値上げをすることが認められ、定款の中の会費価格を下記のように書き換えることが承認されました。
個人会員 7000円、学生会員 3000円、団体会員 40000円、特別団体会員 60000円。

[セッション2]

午後からの講演会では、梅田前会長の司会のもと、「クルーズ業界の未来」と題して、郵船クルーズ(株) 執行役員管理部長の小松崎氏から、建造中の「飛鳥III」に関する詳細な説明、商船三井クルーズ(株)代表取締役社長の向井氏から「Mitsui Ocean Fuji」と「Mitsui Ocean Cruises」が目指す世界と題して12月からの同船のクルーズに関する説明がありました。その後、国土交通省港湾局クルーズ振興室長の林氏から「訪日クルーズ客船の現状」と題して、主に外国船クルーズの日本近海での活動状況についての説明がありました。



小松崎氏

[セッション3]

「セッション3」では、片山監事の司会のもと、客船の技術に関する4つの講演がありました。川崎重工業 船用推進システム総括部の池田氏は、同社が開発した「LNG専燃エンジン+バッテリー+軸発兼推進電動機からなる環境対応型ハイブリッド推進システム」の貨物船での実績について説明があり、フェリー やクルーズ客船でも有用なシステムとしました。三菱造船株式会社の電化デジタル化グループ長の廣田氏からは、同社の自動運航フェリーの開発状況の説明があり、また安価に船舶の運航支援ができる「ナビン」についての説明もありました。大阪公立大学の橋本教授と檜垣助教からは、フェリーの自動運航技術開発の最前線の説明と、AI技術の適用がそのキーポイントとなるとの説明がありました。大阪公立大学の中谷教授からは「船舶用新燃料のライフサイクルアセスメント」の講演が予定されていましたが、出席ができなくなったためビデオでの講演となりましたが、会場音声機器の不具合から途中で上映をあきらめ、池田事務局長から、LNG、水素、アンモニア等の新燃料について船舶からのCO₂排出は減るものとの、燃料製造から使用までの「Well to Wake」のライフサイクルでの評価をしてみると、現状では、重油の方がCO₂

総排出量が小さいこと、社会コスト的にも重油の方が優位になるというショッキングなことが明らかになったという説明がありました。



池田氏



廣田氏



橋本教授



檜垣助教

[セッション 4]

最後の総合討論では、池田事務局長の司会のもと、3人の女性参加者のパネルディスカッションが行われました。長年クルーズ販売に携わり、プリンセスクルーズの日本発着クルーズにも貢献したクルーズバケーションの木島氏、歴代飛鳥の運航に携わった小松崎氏、雑誌クルーズの編集長として活躍中の吉田氏の3人が、それぞれの視点からクルーズ業界に経験と、これから日本のクルーズの振興についての思いを語りました。「クルーズの会議なのに、この会場は男性ばかりで女性がちらほらですね」といった指摘も。



右から木島氏、小松崎氏、吉田氏



会場を埋めるのは男性陣!!

本講演会の内容については、来年早々にも発行の学会誌 Cruise & Ferry の 40 号に掲載の予定です。

(文責: 池田良穂)